

都留文科大停と私

都留文科大 英文学科教授 丸山 康雄

本年三月で定年退職を迎える私ですが、最後に、市民の皆さまやご関係の各位に、ごあいさつを申し上げる機会をあたえていただきたいことを心から感謝いたします。年が改まってから、「最終講義がどうの」、「長いこと苦勞さまでした」とか、「いよいよですね」などと周囲から声をかけられると、何とも感慨深く、ついにその時が来たのかと実感せずにはいられないこの頃であります。

例えば、昭和三十五年四月、都留文科大が、今の市役所のある場所、産の声をあげて以来のことですから、本当に長い間お世話になったものであります。

最初の三年間は非常勤で、昭和三十八年に英文学科が発足してからは専任として二十九年間、合わせて三十二年間、それは正に、都留文科大創設期の波瀾に富んだ三十二年間でした。その三十二年間という長期に及んで、大過なく自分の職責を全うすることができましたことは、ご関係各位の並々ならぬご指導とご鞭撻のお陰であります、改めて心から感謝申し上げる次第であります。

波瀾に富んだ三十二年間と申しましたが、都留文科大の今日あるは、文字通り数々の波瀾を乗り越えてのことで、その渦中に身を置くことができて、毎日の授業はもちろん、初期の学生委員、中期の教務厚生部長、後期の英文学科主任など、私なりにその重責を全う

することができましたことは、正に身に余る喜びであります。今にして想いますと、何か或る種のノスタルジアにも似たものを感じて、自己満足的な感傷に浸るこの頃であります。

そういえば、創立以来三十二年という都留文科大の歴史は、そのまま私の半生のあゆみでもあるのです。来るべき退職の日を前にして、過ぎ去った歳月をふりかえりますと、実に様々なことがありました。そんな様々な事象が、めぐる走馬灯のように私の脳裡をかすめ去っていきます。

そんな想い出の中に、今だからいえることが一つあります。それは、四年制大学の審査を受けるのに、大学の生命ともいえるべき図書が足りないということ、私の書齋が数ヶ月空っぽになったことがあるのです。もちろん審査が済んで返してもらったのですが、中央道など無かった時代のこと、大切な書物が一冊残らず土ぼこりにまみれて返されて来たのです。そんな書物を、入念にはこりを取り除いて、一冬かけて書棚に整理をした時のことが、何故か書物を手にする度に今でも想い出されてなり

ません。正に無から有を生じた大創設期のエピソードであり、先人の英知に頭の下がる思いがいたします。

また、忘れようにも忘れられないことがもう一つあります。それは、全国の大学民主化闘争のさきがけともいわれた、正に大学の存亡をかけたといっても過言ではない四十年代の紛争であります。この紛争では、学生も教職員も、市民の皆さんも共に苦しみました。歴史のない大学の基本にかかわる紛争であったと思います。今日、都留文科大が、天下にその存在

を誇れるのも、ある意味で、あの紛争を契機に立ち直ることができたかも知れません。そういう意味では、生みの悩み、創設期故のどうしても通過しなければならぬ苦悩であったのかも知れません。大学が軌道に乗るまでのエピソードは語れば尽きません。しかし今、大学は着実に発展し続けております。大学の発展は都留市の繁栄に通じる相関を否定することはできません。そんな大学の創設期に喜怒哀楽を共にした各位に心から感謝の意を表し、ご関係各位のご健勝を祈念して筆をおきます。

講習会・講演会 都留文科大体育会

講習会「トレーニングの方法」
期日 3月13日(金)
午後3時より
講師 麻場一徳
都留文科大講師

講演会「自己への挑戦(仮題)」
期日 3月14日(土)
午後1時より
講師 伊藤繁雄(一九六九年卓球世界チャンピオン・前卓球全日本監督)

会場 都留文科大新研究講義棟 N101教室
連絡先 都留文科大体育会本部
☎(43)1964

第23回子どもまつり 実行委員会開催

今年の五月で二十三回を迎える「つる子どもまつり」に向けて実行委員会がスタートします。私達の生活の場である都留市のよりよいまちづくりと、子ども達が生き生き出来るような環境づくりを目指して、つる子どもまつり実行委員会は活動しています。多くの市民の方との話し合い、協力の下、今回の「子どもまつり」も創り上げていきたいと思っております。興味・関心のある方は是非ご参加ください。

日時 3月27日
午後7時30分より
場所 文化会館三階和室

